

口永良部島の火山活動解説資料（平成 22 年 10 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では引き続き噴気がみられており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 21 年 10 月 30 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1）

新岳の噴煙活動は低調で、白色の噴煙が火口縁上概ね 100m（最高高度は 300m）まで上がりました。

・地震や微動の発生状況（図 1）

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 25 回（9 月：24 回）でした。今期間、震源決定された火山性地震はありませんでした。

火山性微動の月回数は 47 回（9 月：33 回）で、前期間と比べて特段の変化はありませんでした。

・地殻変動の状況（図 1、図 2）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 11 月分）は平成 22 年 12 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

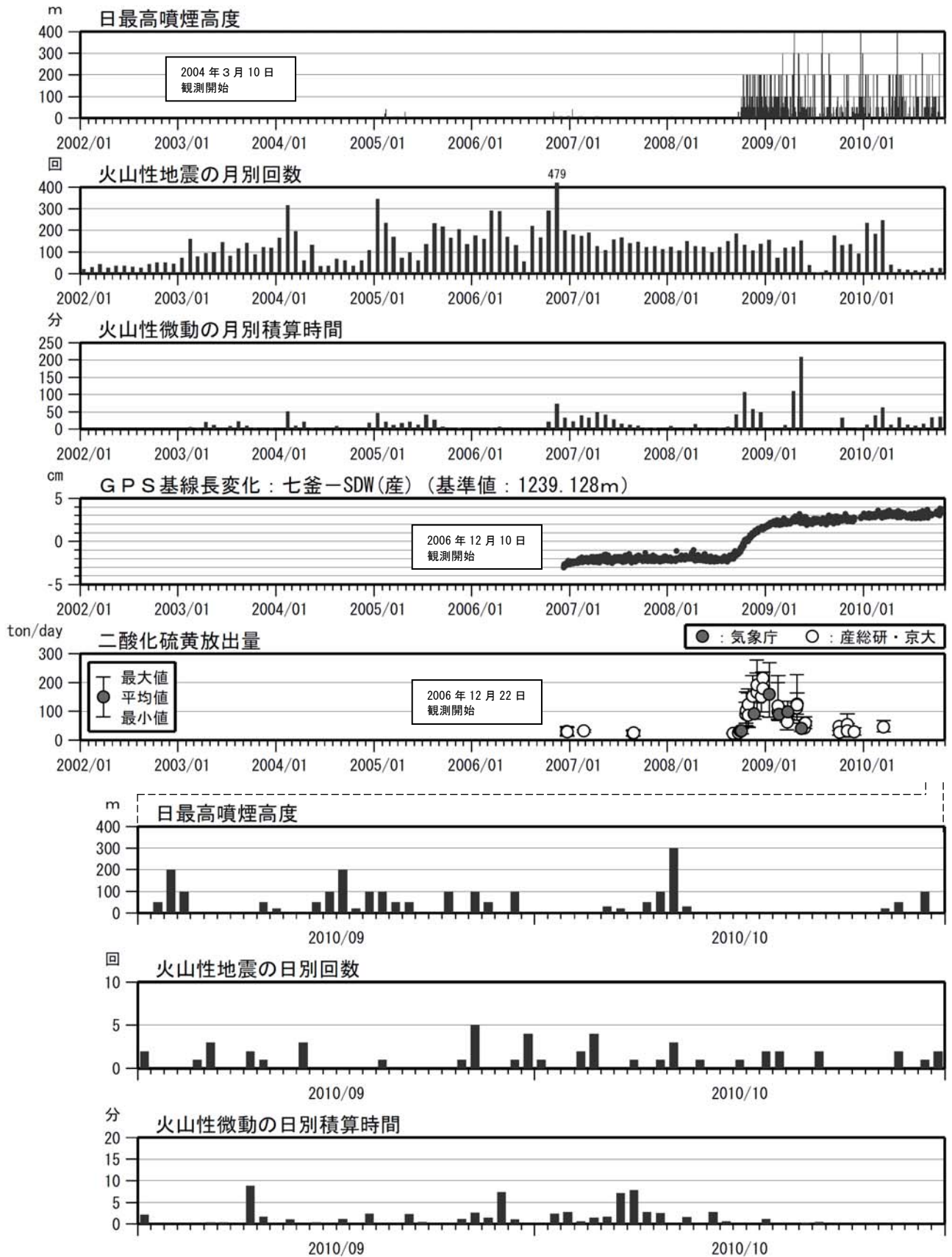


図 1※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2010 年 10 月）

<10 月の状況>

- ・ 噴煙活動は低調で、噴煙の高さは火口縁上概ね 100m（最高高度は 300m）で経過しました。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 25 回（9 月：24 回）でした。
- ・ 火山性微動の月回数は 47 回（9 月：33 回）で、前期間と比べて変化はありませんでした。

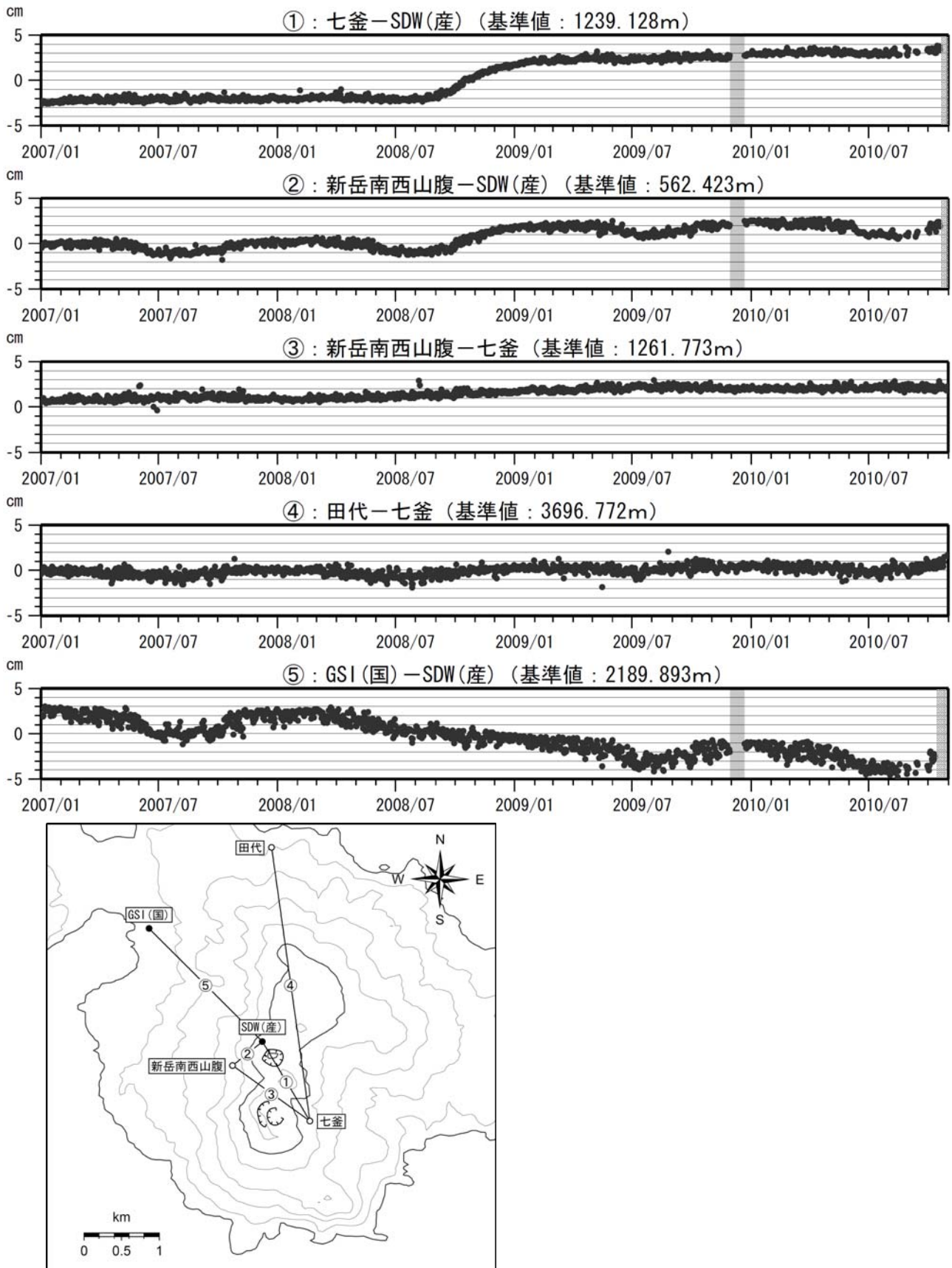


図 2※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2010 年 10 月）

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
灰色部分は観測点障害のため欠測。

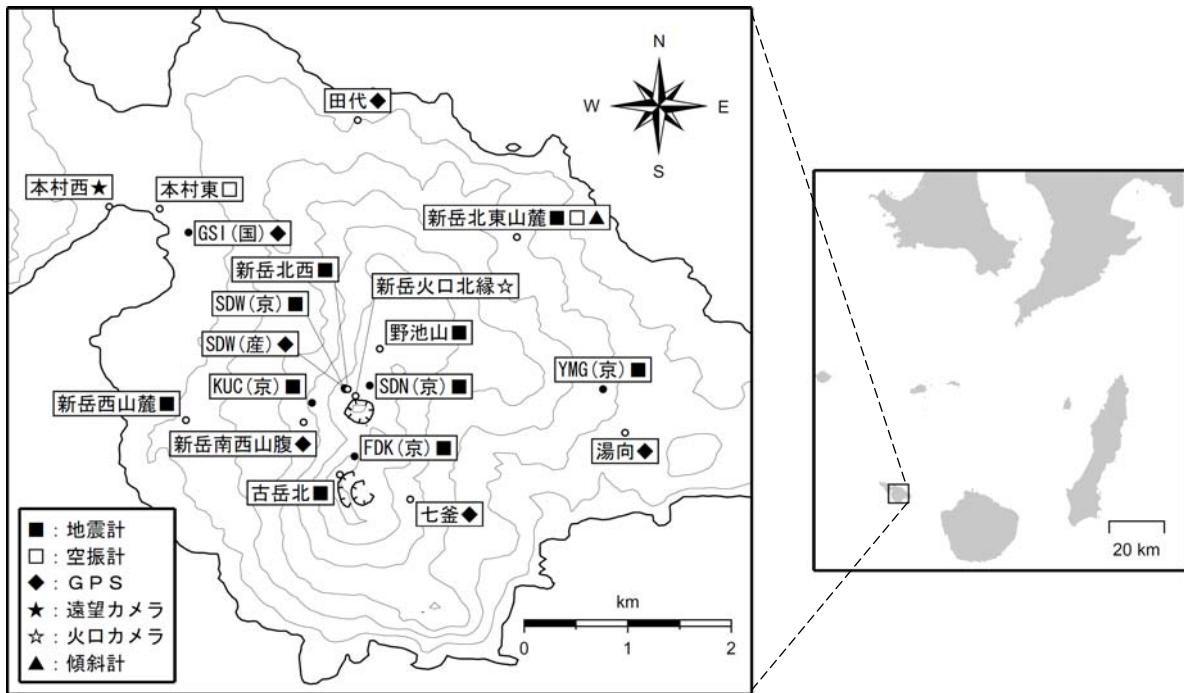


図 3 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
運用開始前の観測点も含まれます。